

IV 幼・保等、小、中連携の充実

1 幼・保等、小、中連携の強化

(1) 今年度の課題

- ア 各中学校区における実態を踏まえた効果的な交流授業の実施を図る。
- イ 実態に応じた連携カリキュラムや連携方法の見直しを図る。
- ウ 生徒指導に関する情報の共有化と連携の更なる推進を図る。

(2) 課題解決に向けた取組

- ア 連携セミナーにおいて、実践校での公開授業、取組を紹介し、各中学校区における確実な実践に向け、実態を踏まえた効果的な交流授業の充実を図る。
- イ 連携セミナーや就学前教育担当者会等において、各中学校区における実態に応じた基本的な生活・学習習慣の定着等の取組についての協議の場の設定、講話等により連携カリキュラムや連携方法の見直しを図る。

(3) 取組の実際

- ア 各中学校区における実態を踏まえた効果的な交流授業の実施

各中学校区における実態を踏まえた取組として、本年度、天草市立稜南中学校・天草市立亀川小学校・天草市立楠浦小学校を会場に開催した幼・保等、小、中連携セミナーにおける稜南中学校区 <資料 : 4つの視点(稜南中学校区「幼・保、小、中連携」全体構想より)> 校区の取組を紹介する。

本校区では、1中学校、2小学校、1幼稚園、5保育園で、「育ち・学びの連続性から、各成長・発達段階において最低身に付けさせたい行動目標を整理し、それぞれが責任を持って目標を達成することによって、たくましく心豊かな子どもを育成する」を目標に、「こころの視点(児童会・生徒会)」「くらしの視点(生徒指導)」「まなびの視点(学力充実)」「いのちの視点(健康・人権教育)」の4つの視点から、目標達成に向けた取組が進められている。

<写真1: 公開授業(幼保小交流授業)>



<写真2: 公開授業(保小中地域交流授業)>



連携セミナー当日の午前の部では、5つの公開授業と3つの分科会が行われた。幼保小連携を視点として亀場小学校1年生の生活科の授業では、亀場幼稚園、亀川保育園、愛隣保育園、戸宇土保育園、宮地岳保育園との交流が行われた。自然物を利用して作った遊び道具などを使って遊び、表現するなどの活動を通して、小学生と園児が交流を楽しみ、小学生が年長児を温かく迎え入れる気持ちをはぐくむこと、園児が就学に期待感を持てるようにすることをねらいとして行われた。

保小中地域連携を視点として楠浦小学校1・2年生の生活科の授業では、児童と園児が地域のゲストティーチャーに昔遊びを教えていただいた。また、稜南中学校1年生を招待して楠浦小学校の児童が地域に伝わる「堀切唄踊り」を発表する交流活動も

行われた。これらの活動を通して、子どもたちは地域の良さを知ると同時に地域を大切にすることを、地域の方は地域の文化を次世代に継承していくことという双方向で意義ある活動が図られていた。

小中連携を視点として稜南中学校の特別活動の授業では、校区の特別支援学級の児童生徒の合同交流会が行われた。小中9年間の見通しを持ち、段階的な移行支援につなげるための連携・展開が図られていた。

公開授業を通して、これまでの連携・交流の成果が子どもたちの育ちの姿としてうかがえた。

午後の部は、「幼・保等、小、中連携の充実に向けて」と題しての行政説明と、稜南中学校校区での全体取組発表及び特色ある実践の発表が行われた。「こころの視点」「くらしの視点」「まなびの視点」「いのちの視点」の4つの視点について各学校、幼稚園、保育園での職員相互の授業参観や情報交換、交流活動等の具体的な実践内容及び取組における結果が発表された。

<資料：取組の結果>



イ 実態に応じた連携カリキュラムや連携方法の見直し

稜南中学校校区では平成20年に幼・保・小・中連携推進協議会（略称「すくすく稜南会」）を立ち上げ、校区の実態にあわせて、地域人材の活用と連携カリキュラムを活用した幼・保、小、中連携に取り組まれている。連携カリキュラムでは、4つの視点での取組の担当を明らかにするとともに、取組内容を発達段階に応じた具体的に示し、「稜南中学校校区における幼・保等、小、中連携新カリキュラム」として連携カリキュラムを見なおしてある。この連携カリキュラムを活用し、幼・保、小、中と家庭・地域が連携した取組が進められている。

<資料1：「稜南中学校校区における幼・保等、小、中連携新カリキュラム」>

H27 稜南中学校校区における幼・保等、小、中連携新カリキュラム すくすく稜南会				
園・学校等 内 容	幼稚園・保育園	小 学 校		中 学 校
		低学年（1～3年）	高学年（4～6年）	
①あいさつ・返事 ★児童会・生徒会活動 【児童会・生徒会担当】	・元気に挨拶や返事をする。 ・「ありがとう」「ごめんなさい」を言葉で伝える。	・進んで明るく挨拶をする。 ・大きな声で返事をする。	・時と場に応じた挨拶をする。 ・はっきりとした声で返事をする。	・大きな声で返事やその場に応じたふさわしいあいさつができる。
②掃除やボランティア活動 ★児童会・生徒会活動 【児童会・生徒会担当】	・使った物の後片付けをする。	・掃除の仕方が分り、時間いっぱい頑張る。 （※補給小：無言掃除の推進） （※亀川小：毎日の無言掃除）	・意義を考え、主体的に掃除やボランティア活動に取り組む。 （※補給小：無言掃除の推進） （※亀川小：毎日の無言掃除）	・進んで清掃活動やボランティア活動に取り組むことができる。 （稜南中：無言掃除の徹底）
③規範意識 ★生徒指導的側面 【生徒指導担当】	・ルールがあることを知り、守ろうとする。	・約束やままりを守る。	・きまりや公衆道徳を守る。	・社会の一員としてルールやマナーを守り、規範意識の高い行動をとることができる。 ・携帯電話・スマートフォン及びインターネットは、夜10時以降は使用しない。
④家庭でのお手伝い ★家庭教育の推進 【生徒指導担当】	・自分でできるお手伝いは進んでする。	・進んで家の手伝いをする。	・家族の一員としての役割を果たす。	・家族の一員として自分のことはもちろん、家族のために仕事を決めて、実践することができる。
⑤話す・聞く ★学びの基盤 【研究主任担当】	・言葉を使って自分の思いを相手にわかるように話す。 ・人の話を最後まで聞く。	・自分の思いを最後まではっきりと話す。 ・相手の話を見て最後まで話を聞く。	・場や目的に応じて、相手に分かりやすく伝える。 ・相手の話と自分の考えを比べながら、反応して聞く。	・相手やその場に応じて内容をまとめ、はっきり、しっかり、わかりやすく（はしむ表現）、話すことができる。 ・相手の考えや思いを理解し、自分と比較しながらしっかり聞くことができる。
⑥読書・家庭学習 （ノーマディアデー） ★学びの基盤 【図書担当】	・家庭でノーマディアデーを決めて、家族で本を読む。 ・紙芝居や絵本に親しむ。	・家庭でノーマディアデーを決めて、家族で本を読む。 （※補給小：週末読書の推進） （※亀川小：親子読書の推進） ・家庭学習を10分×学年+α取り組む。	・家庭でノーマディアデーを決めて、家族で本を読む。 （※補給小：週末読書の推進） （※亀川小：親子読書の推進） ・家庭学習を10分×学年+α進んで取り組む。	・家庭でノーマディアデーを決めて、家族で本を読む。 ・家庭学習を1.2年生は最低1.5時間、3年生は最低2時間取り組む。 ・読書の推進
⑦生活習慣 （早寝・早起き・朝ごはん、歯みがき） ★健康教育的側面 【養護教諭・保健主事担当】	・自分の体のことに興味や関心をもつ。 ・「早寝・早起き・朝ごはん、歯みがき」の基本的な生活習慣を身に付ける。	・朝決まった時刻に起き、夜9時までには寝る。 ・きちんと朝食を食べる。 ・食後には歯みがきをする。	・朝決まった時刻に起き、夜10時までには寝る。 ・きちんと朝食を食べる。 ・食後には歯みがきをする。	・バランスのよい食生活、充分な睡眠、適度な運動を実践する。
⑧コミュニケーション能力 ★人間教育的側面 【人間教育主任】	・自分の思いを伝え、友達の思いを受け止めながら遊ぶことを楽しむ。	・友だちとなかよく助け合う。	・相手の気持ちを考えた言動をとり、互いに協力し合う。	・お互いの立場や気持ちを理解し、自分の意見や思いを伝えることができる。

天草管内においては、一つの中学校区を除いたすべての中学校区において、連携協議会の設置、連携カリキュラムの作成が完了し、カリキュラムに沿った連携活動が進められている。

しかしながら、児童生徒等の減少、社会の変化など地域や子どもたちの実態は、常に変化している。距離等の事情から、直接の交流が難しい実態がある場合は、「行動連携」よりも「目標連携」に重点を置き、それぞれの実態に応じた連携体制づくりが必要となる。また、児童生徒の減少に伴い、今後も学校の統廃合が予想されるが、統合初年度から連携カリキュラムに沿った活動が進められるよう準備をしていく必要がある。

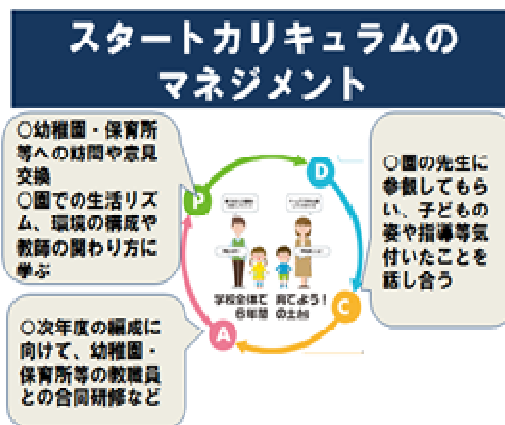
幼稚園・保育所（園）と小学校の連携のためのカリキュラムである「スタートカリキュラム」を活用した取組については、校区内に幼・保等を有するすべての小学校において、スタートカリキュラムが作成されており、それを活用した取組が推進されている。今後は、前年度の課題や新入学児童の実態を踏まえて、スタートカリキュラムを見直し、活用していく必要がある。

なお、スタートカリキュラムの見直しに当たっては、幼、小の教育の目標を「学びの基礎力の育成」という一つのつながりとして捉え、幼稚園・保育所（園）との連携の中で進めていただくことをお願い

＜資料：スタートカリキュラムのマネジメント＞

いしたい。

小中学校間の連携については、小中合同の行事への取組や教員の乗り入れ授業等、緊密な情報交換や交流によって、円滑な接続を意識した取組が行われている学校が増えてきている。今後も、中１ギャップの未然防止に向けて、生活習慣・学習習慣・学習内容の定着等を連続して考え、県学力調査（質問紙調査を含む）等の結果も参考にして、円滑な接続となるよう取組を工夫する必要がある。



ウ 生徒指導に関する情報の共有化と連携の更なる推進

幼・保等、小、中連携を推進し円滑な接続を図るうえで、特に生徒指導に関する情報の共有化を図ることが重要である。また、日常的に生徒指導に関する連携を深め、児童生徒の指導にあたることが重要であると考ええる。

生徒指導に関する情報の共有を推進するために、基本的な生活・学習習慣の定着等、生徒指導に関する情報の共有を一層推進していただきたい。

基本的な生活習慣の定着については、平成26年3月に策定された「第2期くまもと『夢への架け橋』教育プラン」（熊本県教育振興計画）において、数値目標として「夜10時前までに就寝する子どもの割合」を現状値（平成24年度）の73.6%から、平成30年度には77%にすることが示されている。

天草管内の状況としては、午後10時前に就寝する子ども（小1～小3）の割合は、75%である（表1）。午後10時前就寝ができていないと回答した

＜表1：基本的な生活習慣の定着状況＞

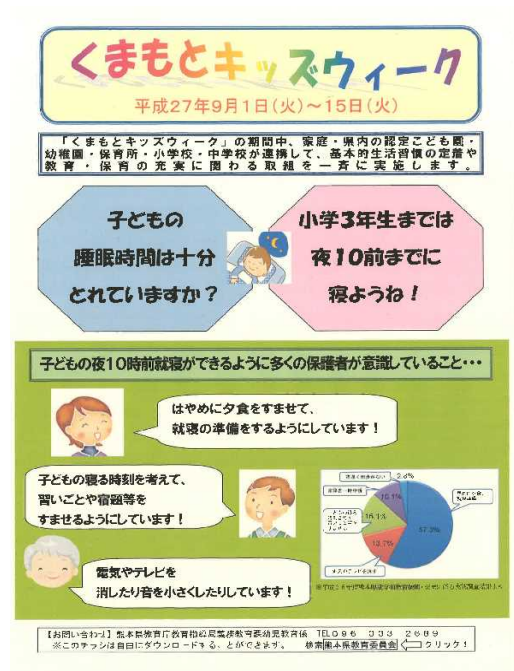
項 目	H 2 6	H 2 7
午後10時前に就寝する子ども（小1～小3）の割合	73%	75%

（H26、27 熊本県就学前教育振興・充実に係る実態調査から）

保護者がその理由として選択したもので一番多かったのは、昨年度同様「午後１０時前に寝かせたいが、家族の生活時間に合わせてしまい、子どもの寝る時刻が遅くなるから」であり、子どもの睡眠時間が依然として家族の生活に影響されている実態がうかがえる。

基本的な生活習慣は、「生きる力」の土台となるものであり、本来、家庭で身につけるべきものではあるが、学校からの働きかけや地域ぐるみの取組が家庭への大きな手助けとなる。そこで、子どもたちの基本的な生活習慣を改善するためには、中学校区で連携して取り組み、科学的根拠を分かりやすく示すことなどが効果的と考えられる。保護者会や学校・学級便り等で身体の発育・成長、心の安定、学力に大きな影響を与えることを、わかりやすく、繰り返し伝えることを推進していただきたい。

＜資料１：H27「くまもとキッズウィーク」啓発資料＞



(4) 成果と課題

ア 成果

ほとんどの中学校区において連絡協議会が設置されており、連携カリキュラムが作成・活用されている。また、地域や各校区における実態を踏まえ、連携カリキュラムや連携方法等の見直し、交流授業に取り組んでいる学校があった。

イ 課題

学校の統廃合が進む中、地域によっては交流の機会が地理的に難しくなっている。一方、連携の対象が１校となり、連携がしやすくなった地域もある。地域の実態に応じた連携の方向性を明確にするとともに、地域人材を活用した効果的な交流授業など地域との連携を深めていく必要がある。

(5) 次年度へ向けた重点課題

- 連携カリキュラムを見直し、地域と一体となった幼・保等、小、中連携を推進する。

＜参考資料＞

- ・「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」
(幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議) 平成２２年１１月１１日
- ・肥後っ子かがやきプラン（改訂版） 熊本県教育委員会 平成２３年３月
- ・「スタートカリキュラム スタートブック」 国立教育政策研究所 平成２７年１月